

OHDSI内では、実名での活動になります。
Zoom参加時も「名前は実氏名で」お願いします。

OHDSI Japan evening conference #9

イブニング カンファレンス(第9回)
2020.9.28



SNOMED-GPS (Global Patient Set)

SNOMED
International

Leading healthcare
terminology, worldwide

+ SNOMED International

+ SNOMED CT

+ Our stakeholders



The GPS supports health information interoperability across care settings, systems, organizations and national borders.

What is the Global Patient Set?

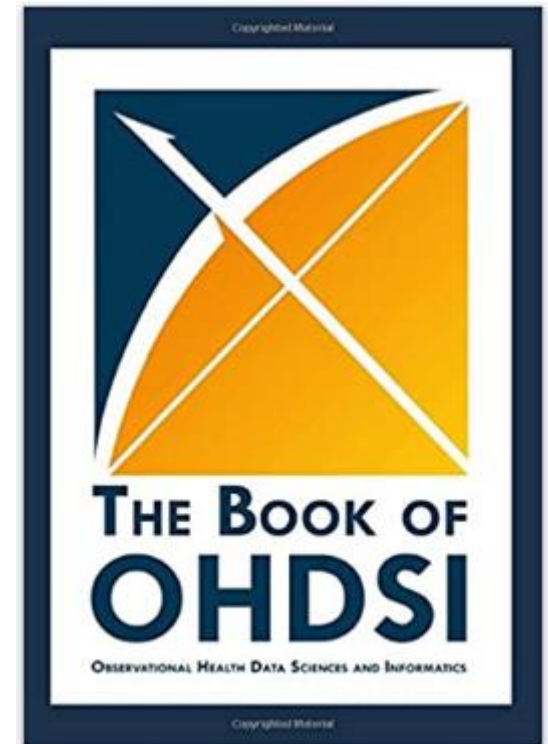


The Book of OHDSI紹介

- OHDSIのすべて（？）が書かれた本
- 無料で読める

<https://ohdsi.github.io/TheBookOfOhdsi/>

- Amazonで物理本も買える
(\$10.82+送料 / ¥2,007)
- 日本語版はOHDSI Japan
メンバーで翻訳進行中





The Book of OHDSI 紹介

第 1 部 The OHDSI Community

1. The OHDSI Community
2. Where To Begin
3. Open Science

第 2 部 Uniform Data Representation

4. The Common Data model
5. Standardized Vocabularies
6. Extract Transform Load

第 3 部 Data Analytics

7. Data Analytics Use Cases
8. OHDSI Analytics Tools
9. SQL and R
10. Defining Cohorts
11. Characterization
12. Population-Level Estimation
13. Patient-Level Prediction

第 4 部 Evidence Quality

14. Evidence Quality
15. Data Quality
16. Clinical Validity
17. Software Validity
18. Method Validity

第 5 部 OHDSI Studies

19. Study Steps
20. OHDSI Network Research

Appendix

- A. Glossary
- B. Cohort definitions
- C. Negative controls
- D. Protocol template
- E. Suggested Answers

References



11. Characterization

- データベース全体のデータのプロフィール
- 対象とする集団の特徴を記述
- 疾患の治療シーケンスを説明（医薬品使用歴等）
- アウトカムの発生率を測定（疾患罹患、副作用発現等）

(実例がしっかり)

- ATLASでのデータベースの特性評価
- ATLASでのコホートの特徴付け
- Rでのコホートの特徴付け
- ATLASでのコホート経路
- ATLASでの発生率分析



12. Population-Level Estimation

「分析疫学」の実施

ある治療は有効か？ある医薬品は副作用をおこすか？の推定。
(曝露のアウトカムに対する平均的な因果影響の推定)

- 研究デザインの設定
- 自己対照デザイン
- ケースコントロールデザイン
- ケースクロスオーバーデザイン
- SCCS (自己対照ケースシリーズ) デザイン

(実例)

- ATLASを使用した調査の実施 (長い)
- Rを使用した調査の実施 (長い)



13. Patient-Level Prediction

臨床的な予後予測をするもの。

- 個々の患者は今後どうなるか？
- 機械学習（教師あり学習）を使う。
結果ラベルをDB内から取得する必要がある。
- 予測モデルの開発
- 予測モデルの評価
- 予測調査の設計ステップ
- ATLASでの調査の実施
- Rでの調査の実施



医療情報学連合大会

<http://jcmi40.org/>

OHDSIのセッション（ワークショップ）を行います。

- 11月18日～22日のどこか、WEB開催、90分。

タイトル： **Inside OHDSI**

－ 世界最大のRWDネットワーク、オデッセイの内側 －

(企画申請書より)

最初に初めて聞く方向けにOHDSIの概要、ついで10月に開催されるOHDSIシンポジウム(米国)等のOHDSI活動の現況を説明したのち、主な参加者である医療情報技師向けにOHDSI内側の技術情報へ踏み込み、データ形式であるOMOP-CDMやOHDSIボキャブラリを解説します。さらに、実際にOMOP-CDMに各医療機関が取り組むにはどのようなステップでできるのか、自院のデータをOMOP化したら何ができるのか、無料公開されている様々なOHDSIツールにはどのようなものがあるか、を可能なら実演も含めて紹介することで、自分たちの取り組みとしてOHDSI/OMOPを捉えてもらえることを目指します。

演者(敬称略) : 木村、岡田、青柳、平松



2020 OHDSI Symposium

Global&USのシンポジウム（メインのもの）

- 10月18日～21日(4日間)、WEB開催。
- 参加費無料～（寄付も受け付けます）
- 参加登録受付中↓

<https://www.ohdsi.org/2020-symposium-registration/>

Asia-Pacific Symposium 2020

- Asia-Pacificのシンポジウム（今回初めて）
- 12月5日～6日(半日2日間)、WEB開催。
- 参加費無料～のはず。



OHDSI Japanの活動場所

ここしばらくは
ネット上での活動。
そのうちリアルも
復活させたい。

- OHDSI Japanサイト: 情報提供
www.ohdsi-japan.org
- 本家Forumの日本コーナー
Forumに登録すると、書き込める。世界中だれでも読める。
<https://forums.ohdsi.org/c/ohdsi-in-japan>
- 日本コミュニティ メンバー登録
Doorkeeperのサイト。ODJで一番大きな枠組み。案内メールが
流れてくる。発言場所はない。イベントの参加登録ができる。
- 日本のコラボレータML
メーリングリスト。ML内で発言できる。流量は多くない。登録希
望者は平松まで（サイト/DKのお問い合わせから）
- 日本のSlack
登録希望は岡田先生まで（お問い合わせでも転送します）。
OHDSI Book翻訳のために作られたが、それ以外でもgenealチャ
ンネルにどうぞ。WS内で発言できる。